Boissard, Jean-Jacques

Habitvs variarum orbis gentium. Habitz de nations estrãges. Trachten mancherley Völcker des Erdskreysz.

[Mecheln], [C. Rutz], 1581. 1vol. 81 plates (copper mono.). 29.5×39.5cm.
〈K383. 1-B〉文献番号 3-11
Hiler p. 100　Colas 366　Lipper. 14-15

ボワサール『各国の服装』

61枚のプレートからなる銅版画集である。各プレートには人物像が三体ずつ描かれており，書名とキャプションはラテン語，フランス語，ドイツ語で表記されている。61枚の他にボワサールの自画像と，ヴェネツィアの二人の貴婦人像と彼女らを讃える詩を書いたプレートが加わる。エッチングによる線刻の技法は見事で，衣装の細部，ひだ，紋様，頭部，装身具などの表現は緻密である。

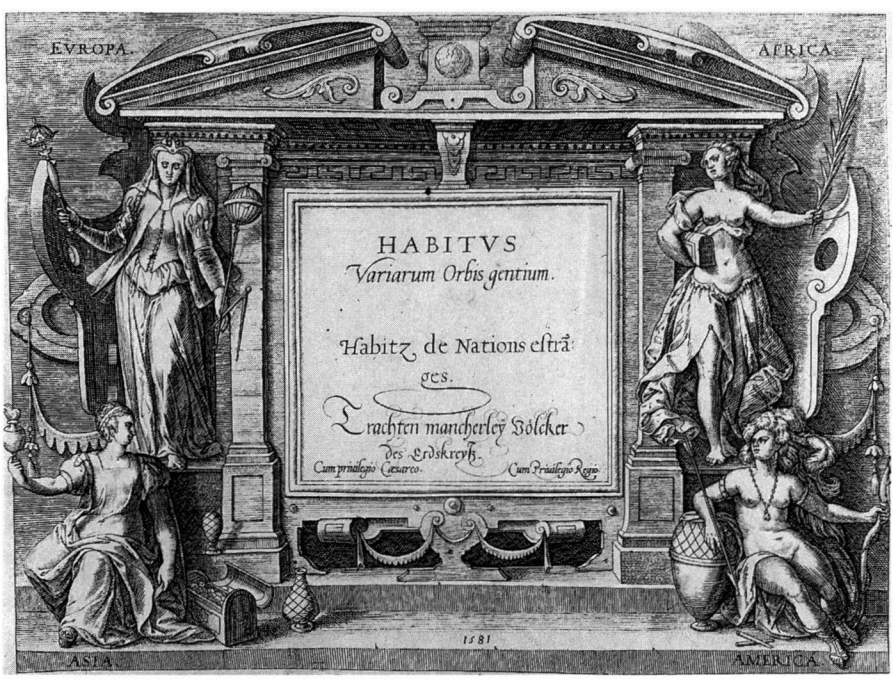
ボワサール(1533-1598)はフランスはブザンソン生まれの，大へんに博学な版画家であった。ヨーロッパ各地はもとよりイタリア各地に旅行し，碑文を写し取ったり古い時代の作品を収集して歩いたといわれる。本書の版画も各地での見聞をもとに実証に従って製作したものと考えられ，内容的にも技術的にも水準の高いものである。

プレートはまずヴェネツィアの公爵夫妻の像にはじまり，優雅で豪華な衣装をまとった貴族，貴婦人像に未亡人像やゴンドラ遊びの情景を加えて，ヴェネツィアだけで8枚のプレートを構成している。続いてパドヴァ，ローマ，シエーナ，フィレンツェ，ミラノ，ボローニア，フェラーラ，マントーヴァ，ナポリ，ピサなどイタリア諸都市の貴族や宮廷人が登場する。すでにヨーロッパ諸国の侵略を受けたこれらのイタリア都市では，フランスやスペイン，ドイツの影響が衣装の上に反映されている。さらにスイス，フランスへと移り，後半はイタリア南部の各都市からレヴァント地域に移って，ギリシア，シリア，ダマスカス，トリポリなど東方貿易の拠点地，そして北アフリカ，エチオピアへと広がる。アラビア人，ペルシア人，トルコ人など異国イスラム圏の人々に対する興味は，ヨーロッパ人には格別強かったであろう。

銅版画による衣服と装身具の記録集は16世紀に刊行されはじめた。特に16世紀後期には東方の異国的衣装も含めてこの種の銅版画が増加する。作家としては，ブリュイン(A. de Bruyn)，アマン(J. Amman)，ベルテッリ(P. Bertelli)，ヴェチェッリオ(C. Vecellio)，そしてボワサールなどが先駆者として知られており，ヨーロッパ人の関心が異国の風俗に向けて高まった時代であったことを反映している。このタイプの版画集が刺激となって，次世紀には優れた衣装画集が生まれることになる。(辻)

『トルコ旅行記』かつてのトルコ後宮の婦人

『トルコ旅行記』メッカの巡礼者



ボワサール『各国の服装』扉絵